

かいほ ジャーナル

Japan Coast Guard Journal
[海上保安庁情報誌]



【特集】現場へ

待っている人がいる

新潟航空基地 機動救難士



53

2012 Winter

海上保安庁

JAPAN COAST GUARD



新潟航空基地機動救難士と
アグスタ139の乗員

特集

現場へ 待っている人がいる 新潟航空基地 機動救難士

4

グラビア

巡視船「しきしま」フィリピン・ベトナムへ派遣

1

大規模津波防災総合訓練に海上保安庁も参加

1

海上保安庁長官交代

2

震災から1年半 被災地で合同搜索実施

2

海上保安学校入学式

3

「2012海保フェア in 立川」開催

3



機動救難士 き章
(イラスト)



水中メガネにタオルを詰めて
視界制限状態で訓練する機動救難士
(特集 6ページ)

トピックス

海上保安庁音楽隊 第19回定期演奏会を開催

10

海洋情報資料館

11

NEWS FLASH ニュースフラッシュ

12

インフォメーション
1月18日は「118番の日」

裏表紙



新潟航空基地所属 アグスタ139
(MH967 らいちょう)



巡視船「しきしま」 フィリピン・ベトナムへ派遣



海上保安庁では、アジア各国との海賊対策に関する相互連携・協力推進を目的として、平成12年以降、年数回、巡視船を東南アジアに派遣しており、8月22日から9月14日までの間、今年度1回目となる巡視船の派遣をフィリピン・ベトナムに向けて行いました。

派遣期間中、各国海上保安機関との連携訓練、海賊情勢や対策に関する意見交換等を実施しました。



大規模津波防災総合訓練に 海上保安庁も参加

9月2日、国土交通省などが主催する平成24年度大規模津波防災総合訓練が岡山県で実施され、国土交通大臣をはじめ国や自治体の関係者及び住民など約7,000人が参加しました。

この訓練は国土交通省が毎年実施していますが、昨年は東日



本大震災の対応から中止となり、今年は2年ぶりの開催となりました。訓練は県内8箇所で行われ、海上保安庁では岡山港において巡視艇による避難広報、ヘリコプターによる漂流者吊り上げ救助等の訓練を行いました。



海上保安庁長官交代

9月11日、鈴木久泰前海上保安庁長官が退任し、北村隆志新海上保安庁長官（写真左）が就任しました。東京都霞が関にある中央合同庁舎3号館大会議室において海上保安庁長官交代式が行われ、鈴木前海上保安庁

長官から北村新海上保安庁長官へと庁旗の引継ぎが行われたほか、前長官、新長官それぞれが職員に対し挨拶を行いました。交代式終了後、海上保安庁音楽隊が演奏を行う中、職員の拍手により鈴木前長官を見送りました。



震災から1年半 被災地で合同捜索実施

東日本大震災から1年半となる9月11日、第二管区海上保安本部所属の巡視船艇・航空機をはじめ、他管区から派遣された巡視船「とさ」「えとも」及び特殊救難隊が、関係機関と共に行方不明者の合同捜索を行いました。震災発生の午後2時46分には各地で祈りが捧げられました。海上保安庁では、今後も行方不明者の捜索活動を続けます。





海上保安学校入学式



10月12日、海上保安学校（京都府舞鶴市）において、船舶運航システム課程第42期生206名（うち女子25名）の入学式が行われました。

入学式には、海上保安庁長官の代理として宮村装備技術部長が出席し、「人間性豊かな社会人を目指し大成できるように自己研鑽に励んでいただきたい。」と長官訓示を伝え、これに対し、新入生代表が力強く宣誓しました。



「2012海保フェア in 立川」開催

10月13日、海上保安試験研究センター（東京都立川市）において「2012海保フェア in 立川」を開催しました。14回目の開催となる今年は、1,958名の方が来場され、海上保安試験研究センターの研究成果の紹介や、ヘリコプターによる救助訓練を実施しました。

また、海上保安庁音楽隊がランチタイムコンサートを行い、多くの来場者を楽しんでいただきました。



現場へ

待っている人がいる

新潟航空基地 機動救難士

一刻も早く救助を待つ人の所へ——それは、救助に携わる者すべての思い
ヘリコプターの機動力をフルに発揮し空から現場に駆けつける
厳しい訓練を繰り返して現場に臨む機動救難士の姿を追う

取材・文／中島 敦（オンサイト）

第

九管区海上保安本部新潟航空基地に機動救難士が配属されたのは2010年10月のこと。当初8名の機動救難士が配属され、現在は上席機動救難士1名、機動救難士8名の計9名体制となっている。潜水士経験者などから選抜される機動救難士の特徴は、ヘリコプターからのリベリング（懸垂下降）によって現場に急行し救助作業にあたることだ。巡視船艇や自動車と比べて圧倒的な機動力を持つヘリコプ



新型機アグスタ139を前に並ぶ9名の機動救難士。統率する小倉上席機動救難士（写真右から3番目）も自ら救助の現場に向う。



ターを使うことで、一刻を争う現場に迅速に到着することができる。

当初、海上保安庁は全国に5つの航空基地を設けたが、昭和29年7月に発足した新潟航空基地もそのひとつ。ヘリコプター1機、総員9名という体制でのスタートだった。当時は朝鮮戦争後の掃海機雷の捜索が大きな目的のひとつだった。現庁舎は総員22名だった昭和50年代に建設されたもので、総員60名（2012年10月1日現在）の大所帯となった現在、第一格納庫裏に新庁舎を増築中である。なお、管轄エリアは九管区の海域に加えて、第二管区の秋田と酒田、第八管区の敦賀と舞鶴の一部海域も受け持っている。

第九管区が管轄する日本海は、津軽海峡から対馬海峡に抜けるルートであること、対岸に各国があることなどから、沖合いを航行する船舶の数は多い。外国船舶の監視はもちろんのこと、日本とロシア、北朝鮮、韓国の地理的中間線が交わっているため漁業関係の取り締まりも重要な任務だ。また沿岸部では、さざえやあわびの密漁も見逃せない事案である。一方、佐渡島や粟島、そして第二管区の飛鳥といった離島からの急患搬送も重要な任務のひとつとなる。記憶に残る事案としては、中越地震、中越沖地震での孤立者救助が挙げられるし、当然のことながら東日本大震災でも出動している。

「管轄している地域は」海岸線の起伏が激しく、交通網が発達していない地域もあり、ヘリコプターの機動力が非常に重要です」。

新潟航空基地、伊牟田駿一基地長はそう説



新潟市郊外、新潟空港と隣接する新潟航空基地。現在、第一格納庫裏に新庁舎増築中だ。

明する。海上から船が接近できない、あるいは時間が掛かってしまう現場、陸路でもアクセスしにくい現場など、厳しい現場であればあるほど、助けを求める人は救助が来るのを待ちわびている。ヘリコプターで現場に飛び、空から降下しての救助活動の意義は大きい。

新潟航空基地には現在、最新型のアグスタ139が2機配備され、基地には常に2名の機動救難士が待機する体制を敷く。2012年3月に配属されたばかりのアグスタ139は、従来機と比べてスピード、荒天下飛行能力、輸送能力などが向上し、安全性はもちろんのこと、吊り上げ救助での確実性も高まった。このアグスタ139（MH967とMH970）はそれぞれ「らいちよう1号、2号」と名づけられているが、

これは従来機の名前を引き継いだもの。新型機導入に際して愛称を公募したところ、慣れ親しんだ「らいちよう」の名を求める声が出元から強かったためだ。固定翼のビーチ350（MA863とMA864）の愛称は「とき1号、2号」。やはり地域を代表する名称に、地元の方々が親しみを感じていることが伺える。

伊牟田基地長は「夏場は風がないとベタ風なので海のレジャーに最適ですが、海のない地域から来られる方も多いのでレジャー事故の半数は県外の方が占めます。一方、冬の気象条件は非常に厳しい。太平洋側と比べれば船舶の数は少ないとはいえず、ひとたび事故が発生すると大きな海難に繋がるケースが多いのです」と、管区の特徴を説明する。いつ、どんなときにも迅速な対応ができるよう常に万全の体制を整えて、新潟航空基地は日本海を見守っている。



総勢60名の新潟航空基地を率いる伊牟田基地長



厳しい訓練の後でも疲弊を感じさせない笑顔が頼もしい。

新

潟航空基地に所属する機動救難士は全9名。小倉章史（小倉）は以前、特殊救難隊でも隊長を務めた経験を持つ。以下、飯田雄二、坂井雄一郎、小笠原義彦、佐藤栄将、谷口智輝、東谷真澄、渡邊翼、小川将司という面々だ。平均年齢33歳。

出動要請に即応するため、2機のヘリコプターに対して機動救難士2名を1組とする4組体制を取っている。2名は常に出勤可能な状態で待機しており、それ以外の7名は訓練を含む業務を行っているのだ。

厳しい現場に対応するための体力と技術は、習得した後も継続的な訓練による維持が求められる。そのため機動救難士達は、プールや海での潜水や、実際のヘリコプターからの降下、吊り上げ救助といった訓練を継続的に行い、体力、技術の維持向上に努めている。では、実際に彼らはどのような訓練を行っているのだろうか。水深5メートルのプールで行われた訓練の様子とは……。

悪条件での潜水捜索、 負荷を掛けた泳力強化

この日の訓練は新潟県警察機動隊のプールを使って行われた。場所によって水深1m、3m、5mと深さが分かれた室内プールで彼らを取り組んだのは、

- ワイヤーストレッチャーの浮力検証
- 視界制限下での捜索技術の向上
- 泳力強化

の3項目だ。

ワイヤーストレッチャーの浮力検証では、救助の現場で使用するワイヤーストレッチャーについて、単体、要救助者が収容された状態、さらには2名同時吊り上げ時での浮力を把握し、確保に必要な人数を確認。また、波などによる衝撃が加わった場合にどうなるかなど、実践に即した内容となっている。

捜索技術については、視界の悪い状態を想



以前は羽田の特殊救難隊に在籍していた小倉章史機動救難士。平成16年、海王丸の座礁事故では、特殊救難隊長として現場に駆けつけヘリコプターから降下し救助にあたった。他の潜水士や地元消防との連携で167名全員を無事に救助した。

常に危険を意識し、訓練を繰り返して救助に向います



福崎 多賀男 ■ 新潟航空基地 飛行士 (アグスタ139機長)

我々の仕事は、機動救難士ひとりでもできませんし、我々パイロットだけでも成り立ちません。ヘリコプターに乗っている乗員すべてが一丸となって機動救難士を降ろす、もしくは要救助者を引き上げる、という活動を行なっています。

ホバリング中、我々は常に機内通話装置でやり取りしています。「右、何メートル」とか「前に何メートル」といった感じにですね。それを頼りに我々パイロットは「耳」で機体を動かしています。機動救難士はそれに合わせて自分のタイミングで降下していくのですが、目指す降下点は必ずしも機体の真下ではない。風によっては機体も傾いていますからね。しかも機動救

難士が降りようとする船は、大抵において荒れた海上にあります。今まで機動救難士と仕事をさせてはいますが、条件が良かったことはそうはありません。

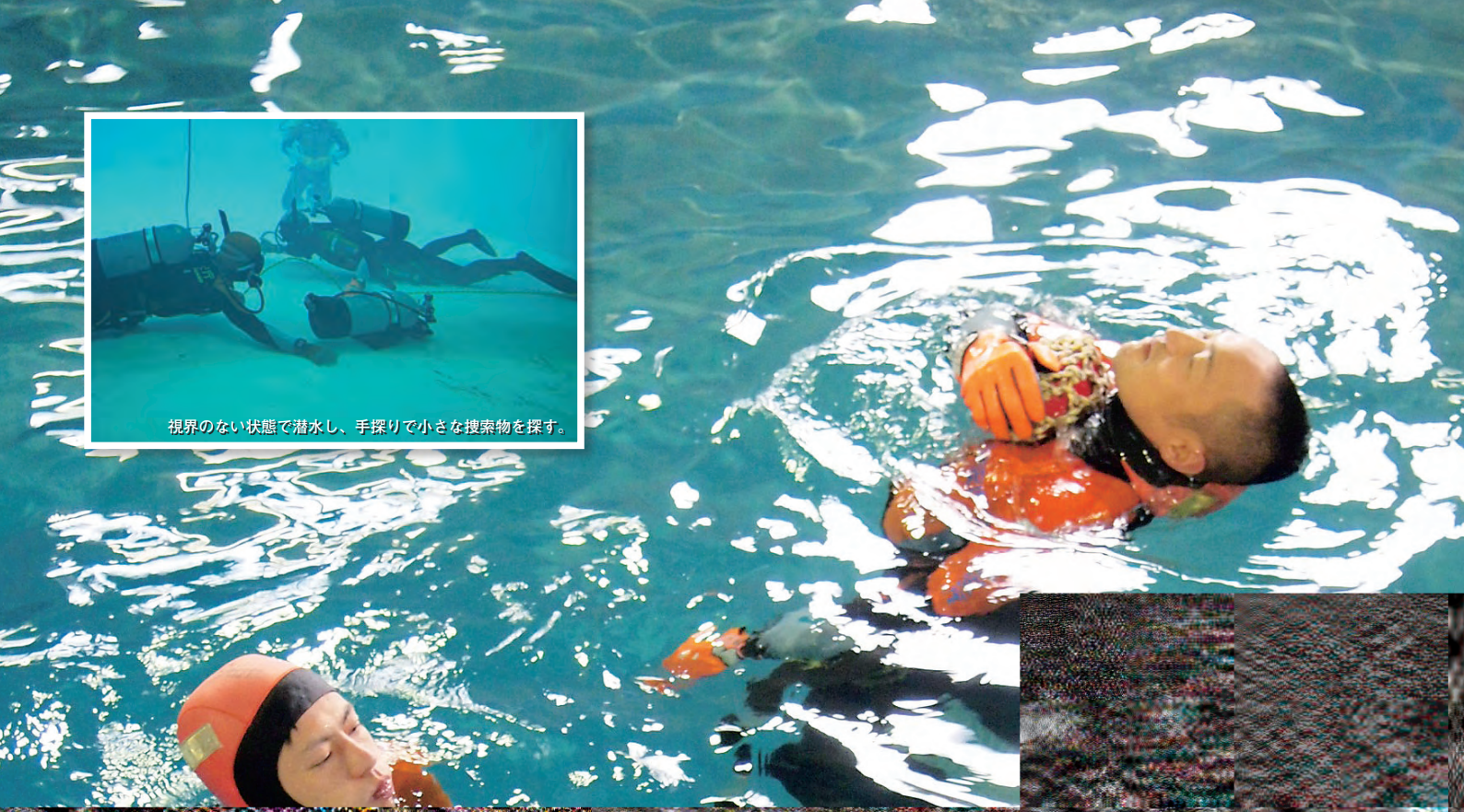
それだけに常に危険は感じています。先輩の言葉ですが「今日はたまたま帰ってきたんだ。そう思え」と言われたことがあります。この言葉が正しいかどうかはともかく、やはり安全に帰ってくるために相応の努力をし、技術を身に付けなければいけません。

羽田航空基地に勤務していたときは特殊救難隊との出動だったんですが、当時、鹿島で大型船が座礁したことがあった。座礁して船体が割れ26名が取り残されて、そのうち13名が海上に投げ出されていた。あの時は台風並みの低気圧で60ノットの風が吹いていて、しかも救助に行ったときはほとんど視界がありませんでした。この状況で降ろせるか、と自問しましたが、特殊救難隊が「信じるよ!」と言ってくれたその一言で決心しました。やはり一緒に訓練を続けてきて、厳しい状況の中でお互いにどうなるかを理解していたからでしょう。

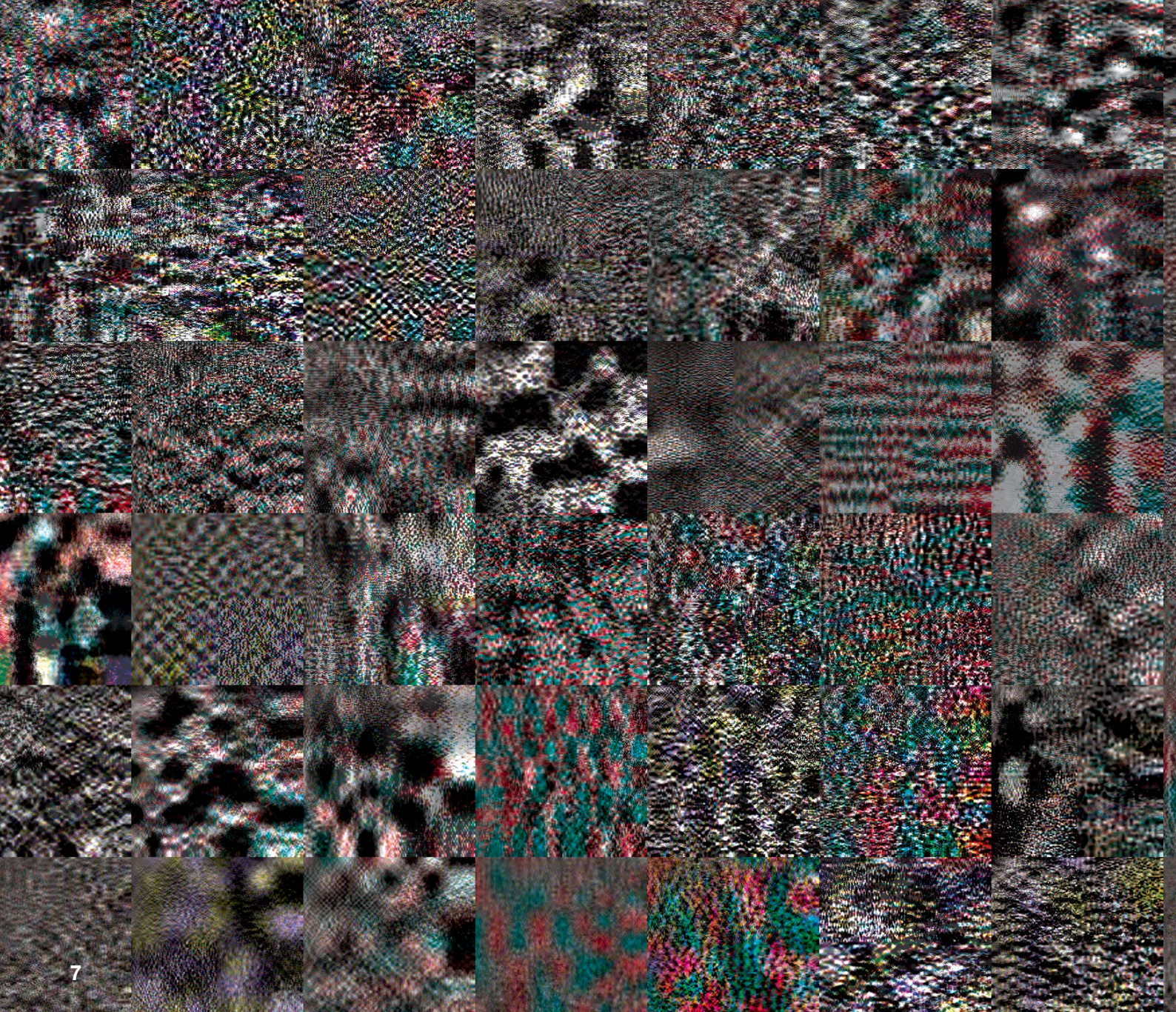
今度の機体、アグスタ139ですが性能は最高です。操縦性に優れていて、それだけに厳しい現場でも頼りになるでしょう。もちろん、それを過信することなく限界を見極めて使わないといけません。スピードがあり、航続距離も長い。現場により早く到着できるのは何よりもありがたいですね。

定、水中マスクの内側にタオルを入れ前が見えない状態で潜水し、プール底に隠された捜索物を探し出す訓練が行われた。2名2組となり、2組がプール内に障害物(この場合は水中ボンベなど)と捜索物(カラビナ)を水中に配置し、残る2組が協力してプール内を捜索する。もちろん、前述のとおりマスクは覆われて視界は奪われている。捜索にあたる2名は互いにロープで繋がりが、手探りでプール内を捜索する。1mから3m、そして5mと捜索を続けながら、数箇所隠された捜索物を回収していった。この間、残る2名は安全のため目隠しで捜索する2名の監視を怠らな

い。泳力強化はもつともイメージしやすい訓練だろう。10kgの錘を胸に抱えて、背泳でプールを2往復。厳しい訓練を繰り返してきた機動救難士にとっても体力的には決して楽ではない。最後の仕上げはやはり6kgの錘を抱えての立ち泳ぎ。4人、同時にプールに入り、錘を抱えたまま立ち泳ぎを続ける。次第に表情は険しくなり、時には一瞬、水中に沈んで再浮上する光景。単に上手に泳げるといふことではなく、厳しい条件下で救助活動を行なうための訓練であることが伝わってくる内容だった。



視界のない状態で潜水し、手探りで小さな搜索物を探す。





救助した方の言葉に励まされます



小笠原 義彦

機動救難士

海上保安学校を卒業してから新潟海上保安部で巡視船やひこに乗船、その1年後に潜水士になりました。平成20年に第八管区的美保航空基地で機動救難士として配属され、2010年10月からは新潟航空基地で活動しています。海上保安学校に入学したときは潜水士というのを知りませんでしたが、クラブ活動で潜水班に入りました。どちらかといえばレジャーダイビングに近いのですが、それでも教官が元特殊救難隊の方だったり、元潜水士の方だったりして、いろいろと現場の話を伺っているうちに潜水士を目指すようになりました。

潜水士として活動した後、機動救難士を目指したわけですが、やはり私は海難にすぐに対応できるようになりたい。潜水士で巡視船に乗っていたときは、どうしても船では現場に到着するのに時間が掛かる。機動救難士であれば、ヘリコプターで現場に急行できますから。

初めての出勤は美保航空基地時代で、夜間の漁船へ降下しての吊り上げ救助でした。体調の悪くなった乗組員の搬送でしたが、リベリングでのスピード感覚とか、夜間だったこともありやはり緊張しました。天候がそれほど悪くなかったので、スムーズに救急隊に引き継ぐことができました。

思い出される事案としては、転覆した漁船の回収作業が挙げられます。やはり夜間で、乗組員は無事に救助されていたのですが、船が流されるからえい航索を取って漁港まで巡視船でえい航するという。付近の巡視船に降り、その搭載艇に乗ってロープを付けに行ったんですが、途中でロープが切れたり長時間作業する中で海面に浮いた油を飲んでしまい、気分が悪くなったことがあります。

潜水士時代はどちらかという亡くなられている方を見つけることが多かったんですが、今の仕事は助けた方とコミュ

ニケーションできることが多々あります。外国の方のことも多いのですが、言葉は分からなくても「ありがとう」と言ってくれていることぐらい分かります。着陸してから救急車に乗せられるわずかな時間ですが、そういった言葉を聞くことができるのは、この仕事でいちばん嬉しいことですね。

今は潜水士時代と比べるとプールでの訓練も減っているんで、定期的に負荷の強い訓練をするよう心がけています。他の現場にいる若い潜水士と一緒に活動することもありますからね。それに、これからは自分が経験したことや考え方を若い人達に伝えていきたい。今後自分が、機動救難士であっても、船に戻って潜水士であっても、あるいは陸上勤務になっても、どういう形であれ、自分の経験を伝え、参考にしてもらえればと考えています。

新潟航空基地 機動救難士の主な出動事例

いか釣り漁船急病人吊り上げ救助

平成23年1月4日、山形県酒田港沖を航行中のいか釣り漁船において急病人が発生、新潟航空基地に出動指示がなされた。患者は45歳男性で、甲板上で作業中に突然卒倒。呼びかけにも反応せず、いびきをかき始めたが、その後意識は回復し、自室にて静養しているところに駆けつけ、ヘリコプターでの吊り上げ救助により庄内空港に搬送した。



客船「飛鳥Ⅱ」急病人吊り上げ救助

平成23年10月18日、秋田県沖を航行中の客船「飛鳥Ⅱ」船内において急病人が発生、新潟航空基地に出動指示がなされた。患者は77歳女性で、左目の瞳孔が拡大、意識レベルの低下により「飛鳥Ⅱ」同乗の医師により「クモ膜下出血」の疑いと診断された。患者を吊り上げ救助し、新潟航空基地へ搬送した。

能登狼煙漁港入港遅延船搜索

平成24年4月15日、石川県珠洲市狼煙漁港の漁船が入港予定時間を過ぎても帰港せず、無線連絡も通じないことから、新潟航空基地に出動指示がなされた。MH967が出動し、翌16日午前0時過ぎに狼煙漁港沖にて転覆状態の船舶を発見。機動救難士が狼煙漁港から漁船で現場へ向かい、転覆船内から1名を揚収(心肺停止状態)。



ヨット転覆海難

平成24年8月4日、航行中のヨットがバランスを崩し転覆、乗っていた男女6人が海に投げ出された。この様子を目撃した者が、118番に通報し、新潟航空基地に出動指示がなされた。投げ出されたのは男性2名、女性2名、幼児2名で、現場に駆けつけたMH970より、男性2名を吊り上げ救助した。



ロープを使い ヘリコプターから二気に降下

翌日はヘリコプターから降下するリペリング訓練に同行した。新潟航空基地からアグスタ139で訓練地となる粟島に向う。飛行時間20分ほどで粟島のヘリポートに到着した。ヘリポート周囲で農作業を行っている住民や放牧馬など、細心の注意を払いつつヘリポート上でホバリングする。

上空のヘリコプターからたった一本のロープで降下するリペリングには高度な技術が求められる。機動救難士になると、このリペリング技術を徹底的に叩き込まれるが、それでも久々にリペリングするときには緊張感を覚えるという。ヘリコプターからの降下には飛び込みの他にこのリペリングとホイストの2種類があるが、ワイヤーで吊り下げて機械の力で人を降ろしたり引き揚げるホイストと異なり、リペリングはロープに降下器を取り付け重力による降下速度を制御して降下

する。登り返すことは基本、できない。だが、メリットとして素早く降下することができ、不安定な海上で、例えば荒れた海の中で揺れる甲板に降りるときなど、ホイストではワイヤーに引つ張られて体勢を崩してしまいう危険があるのだ。このため海上保安庁が使用する降下器には、独自の開発により、素早くロープを外すことができる機構が組み込まれている。

ホバリングするヘリコプターの中で、降下する機動救難士はロープに降下器を取り付け、安全を確認して機外に身体を出すと、エンジンの爆音とローターからの強い風圧に晒される。この間、ホイストマンがヘリコプターの誘導を行い、降下ポイントの様子(もちろん実践では海上のことが多い)を注意深く監視しながらパイロットに位置を指示する。降下する機動救難士にしても、タイミングを誤れば降下ポイントから外れる可能性がある。風を読み、海上では波を読み、パイロット、ホイストマン、そして機動救難士は文字通り「息を合わせて」目指す着地点に向け降下

する。

ヘリコプターの轟音と爆風に晒されながら、この日は2名の機動救難士がそれぞれ計4回のリペリング、そしてホイストによる吊り上げ救助訓練を繰り返した。

実動を意識したトレーニング

後輩の指導にあたっている小倉上席機動救難士は、実動に備えた日々の訓練についてこう説明する。

「新潟航空基地に機動救難士が配属されてまだわずか2年。今いる人員の中でも他で機動救難士あるいは特殊救難隊を経験しているのは3名しかいない。他の者はこの新潟航空基地で初めて機動救難士になった者ばかり。しかも出動件数も少ないから経験が浅い。機動救難士を率いる身としては、そこが不安なところです」

体力も技術も訓練で身に付けることはできる。事実、特殊救難隊での実績を積んできた小倉上席機動救難士ですら「ひとまわり若い隊員と比べると体力的にきついと思う

ことはあります」と認める。だが若い隊員にとって、身に付けた体力と技術を発揮し、それを自らの経験として蓄積する機会が少ないのが実情なのだ。

「ですので過去の事例を研究したり、イメージトレーニングを繰り返しています。そして、まずは自分で考えろ、と。ケースバイケースですから割り切れる。正解などなくても、それでも自分だったらこうするという考えを持ってもらいたい。その繰り返しです。あとは、とにかく自分の命は自分で守ってくれ、ということに尽きます。正直、無事に帰ってきてくれるだろうかというのが心配で、人を送り出すより自分で出動する方が断然楽ですね」

出動件数が少ない(＝事故が少ない)という喜ばしい状況の中で、それ故に経験の少ない若手を育てている小倉上席機動救難士の率直な声だろう。

海上保安庁音楽隊 第19回定期演奏会を開催



平成24年11月10日(土)午後2時から、東京都品川区の「ゆうぼうとホール」にて、第19回定期演奏会を開催しました。多数の応募をいただき、抽選の結果、1,372名の皆様にご来場いただきました。

<演奏曲目>

行進曲「海軍紳士録」

作曲:J.P.スーザ

柳絮の舞

作曲:福島 弘和

「グリーン スリーヴス」による幻想曲

作曲:R.ヴォーン=ウィリアムズ / 編曲:D.E.ワグナー

トム・ソーヤ組曲

作曲:F.チェザリーニ

ストライク・アップ・ザ・バンド

作曲:G.ガーシュウィン / 編曲:J.ブルーベーカー

マンシーニ!

The Pink Panther ~ Moon River ~ Baby Elephant Walk ~ Dreamsville ~ Peter Gunn

作曲:H.マンシーニ / 編曲:S.ブラ

ジャパニーズ・グラフィティXⅧ 美空ひばりメドレー

愛燦燦 ~ リンゴ追分 ~ お祭りマンボ ~ 川の流れるように

編曲:星出 尚志

ふるさと

故郷

作曲:岡野 貞一 / 編曲:真島 俊夫

映画「BRAVE HEARTS 海猿」より

作曲:佐藤 直紀 / 編曲:杉本 幸一

【アンコール曲】

赤とんぼ 我らの指揮者



映画「BRAVE HEARTS 海猿」を演奏



指揮者の稲垣征夫氏



映画「BRAVE HEARTS 海猿」の演奏に先立ち、羽田特殊救難基地の中澤隊長と元特殊救難隊長の寺門広報企画係長が登場し、特殊救難隊の業務や苦労話など、ユーモアを交えて紹介し演奏を盛り上げました。終演後は音楽隊員と一緒にロビーで皆様方のお見送りをしましたが、多くの方から写真撮影を求められるなど、人気の的になっていました。

【今後の海上保安庁音楽隊演奏予定】

ランチタイムコンサート

平成25年2月6日(水)12時15分~12時45分

平成25年2月13日(水)12時15分~12時45分

テレコムセンタービル 1階アトリウム(東京都江東区)

霞が関中央合同庁舎第2号館 1階ロビー(東京都千代田区)

QRコードから演奏予定が確認出来ます



海洋情報資料館

海洋情報資料館は、海上保安庁海洋情報部庁舎1階に開設しています。昨年度の庁舎移転により、東京都中央区築地から江東区青海に移転し、平成24年1月25日より装いを新たに展示品の公開を行っています。開館時間は、平日の午後1時から午後5時まで（年末年始を除く）です。



古い海図など歴史的資料の展示



波浪図作成や潮汐計算に使用していた機器の展示



海洋情報資料館には、明治4年に我が国の海図作成機関として兵部省海軍部水路局が誕生して以来、海図作成等の海洋情報業務に使用してきた貴重な資料・機器・旧版海図などを展示しています。

<主な展示内容>

- 最新の海洋情報業務を紹介するパネル
- 測量船の変遷
- 海の深さ、流れ、水温の測定や解析に使用していた機器
- 昔の世界の海図、日本で最初に作られた貴重な海図
- 海図の原版である銅版と関連資料

資料検索システム

海上保安庁海洋情報部が保有する明治初期から昭和20年頃までの海図、古地図、水路誌などの歴史的資料をパソコンで閲覧出来るシステムです。歴史的資料及び海上保安庁以外で保管している歴史的資料の調査を実施し、その結果を基に、資料の電子化を図りました。海洋情報資料館に設置した検索システムにより電子化したすべての資料を閲覧出来ます。



検索システム
自由に
目下下さい

海図アーカイブ

ホームページでも、古い海図の一部や目録、伊能図原図を模写した伊能図謄写図などを見ることが出来ます。海洋情報資料館の館内に設置された検索システムでも閲覧出来ます。
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KIKAKU/kokai/kokai.htm>



海洋情報資料館特別企画展示

海洋情報資料館では、特別企画展示を開催しています。これまでに「維新と海図」、「天文・測地観測の歩み」などの特別企画展示を行いました。今後の予定は、海上保安庁海洋情報部のホームページにてお知らせします。
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>



案内図



海洋情報資料館（入館無料）

開館時間 午後1時～午後5時（土、日、祝日、年末年始を除く）

〒135-0064 東京都江東区青海2-5-18

新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅下車、徒歩5分

〈問い合わせ先〉海上保安庁海洋情報部 電話03-5500-7120

NEWS FLASH



巡視船「やまくに」一般公開

8月26日・大分海上保安部



舞鶴市立青葉中学校2年生の職場体験学習

11月1、2日・舞鶴海上保安部



留萌高校2年生の職場体験学習

8月29日・留萌海上保安部



平成24年度東北管区
広域緊急援助隊総合訓練

9月5日・青森海上保安部



串本西小学校5年生の社会科見学

11月8日・串本海上保安署



高校生の職場体験学習

9月19日・釧路海上保安部

青森港埠頭・水域保安・
テロ対策訓練

9月24日・青森海上保安部



明神礁付近で第五海洋丸
殉職者追悼式

10月6日・海上保安庁海洋情報部



世界唯一のガラス張り
デザイン灯台「せとるべ」
(高松港玉藻防波堤灯台) 一般公開

11月3日・高松海上保安部



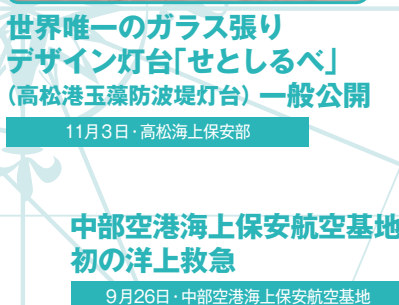
牧草ロールで海難防止啓発活動

9月19日・網走海上保安署



新潟県佐渡市で合同潜水訓練

8月27日・佐渡海上保安署



中部空港海上保安航空基地
初の洋上救急

9月26日・中部空港海上保安航空基地

越前松島水族館の
イルカショーで
防犯広報活動

10月20日・福井海上保安署



女性海上保安官
初の制圧検定
上級合格

10月10日・海上保安学校



巡視船「しよりゅう」が火災船消火活動

10月9日・四日市海上保安部



第六管区海上保安本部管内で
制圧合同訓練

10月26、30日・第六管区海上保安本部



犬吠埼灯台で
「灯台記念日特別公開」

11月3日・銚子海上保安部



堺泉北港テロ対策総合訓練

10月25日・堺海上保安署

第13回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール 海上保安庁長官賞等の決定 (11月1日)



小学生低学年の部

埼玉大学教育学部附属小学校2年生
矢部 寛季さん



小学生高学年の部

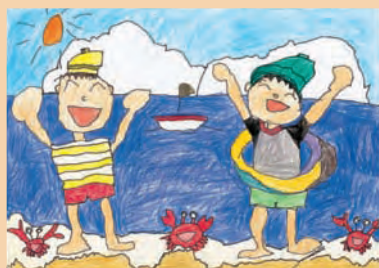
徳島市加茂名小学校5年生
小川 蒼生さん



中学生の部

福島県石川郡浅川町浅川中学校3年生
岡本 遥子さん

海上保安庁長官賞



小学生低学年の部

常滑市立鬼崎南小学校1年生
渡部 颯太さん

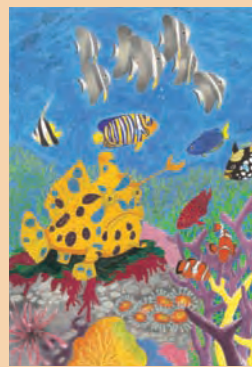


小学生高学年の部

青森市立浦町小学校
6年生
佐々木 琉馬さん

中学生の部

知立市立竜北中学校
2年生
加藤 里帆さん



海上保安協会会長賞



INFORMATION

1月18日は「118番の日」

海上保安庁緊急通報用番号「118番」の緊急性・重要性をより多くの人々に理解してもらうため、毎年1月18日を「118番の日」と制定しています。

海の「もしも」は**118番**

「118番」は緊急通報用電話番号です。

間違い電話、いたずら電話などが後を絶たず、本来の緊急電話が掛った際の障害となっています。



命をかけて、命を救う——。

BRAVE HEARTS

プレイブハーツ

海猿

UMIZARU

www.umizaru.jp

伊藤英明 加藤あい
佐藤隆太 仲里依紗 三浦翔平 平山浩行 伊原健志 崎行三郎

ライフジャケットは、あなたの命を守ります。

着用推進運動 実施中

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



かいほジャーナル53号

平成24年12月21日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD